

令和7年度 総務経済常任委員会 所管事務調査報告書

令和8年4月17日

富士見町議会

議長 小倉 裕子 殿

総務経済常任委員会

委員長 五味 仙一

総務経済常任委員会は令和8年3月18日、19日に、

①「ENEOS(株)堺製油所」②「道の駅とよはし」の視察を実施しました。
下記の通り報告します。

記

1)目的

- ① ENEOS(株)堺製油所への視察目的として、エネルギー供給と脱炭素の取り組み把握し、将来に向けた脱炭素の取り組みの方向性を探る。
- ② 愛知県の人気道の駅にもランキングされている「道の駅とよはし」は、多種多様な農産物直売所がある。また、2021年6月には、国土交通省から広域的な防災拠点となる「防災道の駅」に選定されている。このことから、様々な取り組み事例などを視察する。

2)派遣場所

- ① 「ENEOS(株)堺製油所」 大阪府堺市西区築港浜寺町1番地
- ② 「道の駅とよはし」 愛知県豊橋市東七根町一の沢113-2

3)期間 令和8年3月18日(水)～19日(木) 2日間

4)派遣議員

五味仙一、矢島尚、織田昭雄、佐久祐司、名取久仁春、小倉裕子

5)視察報告

報告書については、

- ① ENEOS(株)堺製油所については、矢島 尚議員、
- ② 「道の駅とよはし」については、名取久仁春議員に作成していただきました。
別添として添付いたします。

ENEOS(株)堺製油所 視察報告書

令和8年4月17日
総務経済常任委員会 矢島 尚

1. 施設の概要

- (1)堺製油所総務グループマネージャー 柴 創介 様
総務グループ総務チームチームリーダー 赤野 修一 様
総務グループ広報渉外リーダー 井原 幸大 様
3名によりENEOS堺製油所の歴史、取り組み説明を受ける。

- (2)堺製油所は、西日本の中心、大阪に展開する堺・泉北臨海工業地帯、関西空港の近くに位置する。敷地面積は770,000㎡、甲子園球場20ヶ分の広さ。1965年操業開始から今年で61年目を迎える。また石油精製に加えて、パラキシレンやプロピレンなど石油化学製品の生産も行う一体型製油所で、エネルギー効率は世界のトップクラスにある製油所。

原油の99%以上を輸入に依存する日本。その多くは現在戦争が行われているペルシャ湾周辺の中東産油国から12,000km(約1ヶ月)におよぶオイルロード経て大型タンカーで運ばれてきている。30万級の巨大タンカー(長さ330m 幅60m)が堺製油所に入港する場合、大阪湾の水位が浅いため九州鹿児島にあるグループ会社で原油を一定量抜き、タンカーを軽くして入港し、備蓄タンクに貯蔵される。

- (3)質問事項(事前に8項目について質問をお願いしてありました。)それぞれの質問に対しましてENEOSのホームページ資料を使いながら回答して頂きました。

■【1.石油の埋蔵量 2.原油の輸入 3.電気自動車の動向 4.燃料油の需要 5.SAFの現状/将来 6.大規模災害対策 7.CO₂対策 8.マイクロプラスチック】について

□その中の回答を抜粋して紹介します。

- 1の石油の埋蔵量に対する懸念⇒急になくなるものではないので大丈夫。
2の原油の輸入⇒中東周辺の原油は質が良い。
3の電気自動車の動向⇒EV車は寒さに弱い。
5のSAFの現状/将来⇒今は航空機で利用/価格が高いため難しい。
6の大規模災害対策⇒通常の給油所は停電時利用できない。SS給油所には発電機があり燃料の給油は可能。富士見町の場合、シモクラ/窪田モーターで給油は可能。

- (4)一連の説明後、マイクロバスに乗車し製油所内をバスの中から見学
(写真撮影禁止) 貯蔵タンクの大きいものは幅 89m 高さ 18m。製油所内の配管の多さには驚いた。
- (5)製油所から毎日出荷される陸上ターミナルでは、40 台のタンクローリーが近畿地方の給油所へ配達しているとのこと。貯蔵タンクの間隔は昔の基準、現在新設する場合には間隔を広めにとる必要があるため堺製油所の新設はできないとのこと。1994 年全国での給油所数は 60,421 軒、2024 年には半数以下の 27,009 軒。更に現在ではその内の半数近くがセルフの給油所となっている。
- (6)輸入→原油貯蔵/備蓄→精製→輸送→販売、と様々な事業展開を経て日常生活にかかせないエネルギーや日用品になる原油。水素/サフ/EVなど別なエネルギー開発が進んでいるものの安価になり需要が増えるまでには、まだまだ時間がかかりそうだ。

参考

今日の石油産業 20 石油連盟 Fuel+

https://www.paj.gr.jp/pdf/today_paj2025.pdf

ENEOS堺製油所 No.1



ENEOS 堺製油所 No.2



ENEOS 堺製油所 No.3



道の駅とよはし視察報告書

令和8年4月17日
総務経済常任委員会 名取久仁春

1. 施設の概要

(1) 名称の由来

- ・計画段階から市の知名度を上げる為には地名を全国にアピールしたかった。
- ・市内の方には親しみのある、市外の方には覚えてほしいため、やわらかいイメージの平仮名とした。
- ・地域振興施設「Tomate (トマッテ)」は来場者に「留まって」、「停まって」、「泊まって」と交流する場になってほしいという想いを込めて命名した。

(2) 施設の概要

- ・道の駅は地域振興施設、JA あぐりパーク食彩村、東側休憩所/防災倉庫の3施設から構成されている。

(3) 道の駅とよはしの特徴

- ・愛知県内最大の敷地面積。(駐車場258台、トイレ数64器)
- ・愛知県内初の「愛知県地域防災計画」の「地域防災活動拠点」に位置づけられている。
- ・地域振興施設はテナント9店舗が入居し、地元食材を使用したグルメを提供している。
- ・JAあぐりパーク食彩村は地元野菜が中心であるが、年中食彩が揃うよう市場と提携し全国から仕入れている。
- ・直売所登録農家は600件ほどである。
- ・野菜だけでなく肉や魚も販売している。

(4) 道の駅の売り上げ

- ・25年度24億円 JA：14億円、トマッテ：9億円、お土産：1億円

(5) 運営方法

- ・市の指定管理者制度で5年おきに更新。
- ・株式会社道の駅とよはしは株式の65%を市が保有し、配当で市に還元している。
- ・知名度向上策はインスタグラム、フェイスブックを主体に自社媒体「道の駅とよはし通信」を発行。

2. 所感

- ・規模の大きさに驚かされた。
- ・道の駅とはいえ、利益が出ない以上やる意味がない、逆に言えばなんでもやり、直売所にしてもお客様が喜ぶ事を優先し地元こだわらず展開している点も参考になった
- ・防災面ではやはり敷地の広さを有効活用している点でうらやましくもあった

—以上

委員長挨拶



地域振興施設「Tomate (トマッテ)」:1



地域振興施設「Tomate (トマッテ)」：2



地域振興施設「Tomate (トマッテ)」：3



JA あぐりパーク食彩村



JA あぐりパーク食彩村：2



JA あぐりパーク食彩村：3



東側休憩所/防災倉庫



東側休憩所/防災倉庫：2



施設案内図



愛知県の人気の「道の駅」ランキング(2025年最新)では、

【第1位】どんぐりの里いなぶ(豊田市)

【第2位】もっくる新城(新城市)

【第3位】とよはし(豊橋市)

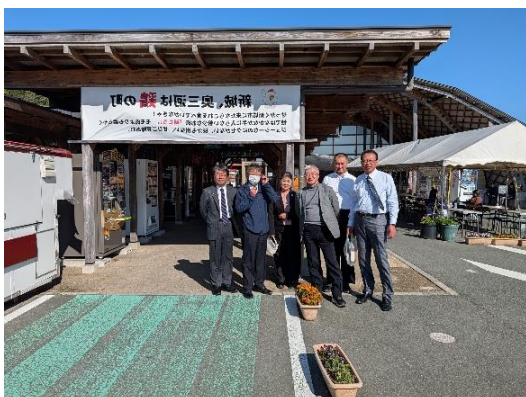
【第4位】にしお岡ノ山(西尾市)

【第5位】したら(設楽町)

【第6位】瀬戸しなの(瀬戸市)

参考: 帰路へ向かう途中、3ヶ所の道の駅(愛知県)を見学しました。

【第2位】 もっくる新城 (新城市)



【第5位】 したら (設楽町)



【第1位】 どんぐりの里いなぶ (豊田市) (休館)



